

令和元年度南予地方局予算の実施状況（R2. 2. 29 現在）

- 1 予算事項名 宇和島圏域水田利用さといも生産振興事業費
 2 事業期間 平成30年度～令和2年度
 3 所 管 産業経済部産業振興課地域農業育成室
 4 事業概要

宇和島圏域の中山間地域の水田は、冬季の積雪の影響等のため生産作物が限定され、年間の利用期間も短い。また、国のコメ政策転換により、水田有効利用が求められているなか、「さといも」は有望であるが、管内では栽培が少なく、技術の蓄積や優良種芋が不足し、省力技術体系も未確立である。

そこで、栽培技術の向上、優良種芋生産や省力生産体系の確立を図り、産地化と水田の有効利用を図る。

	令和元年度
予算額	534 千円

5 事業内容

(1) 宇和島圏域水田さといも生産振興協議会の開催（予算額 32 千円）

地域の水田利用状況と振興方策、関連事業の取り組み等について検討会を開催した。構成メンバーは、JAえひめ南、宇和島市、鬼北町、松野町（農業担当課及び農業再生協議会）、県（農林水産研究所、南予地方局産業振興課地域農業育成室）。

○第1回 6月18日（火）南予地方局7階会議室

- ・今年度の生産技術の向上や優良種芋生産技術の実証の取り組みについて検討。
- ・種芋生産技術の向上と出荷のガイドラインの作成、作業受託組織の育成に向けた活動を重点的に実施。



○担当者会 11月28日（木）南予地方局 営農相談室

- ・種芋生産ガイドラインの作成及び種芋出荷ガイドラインの検討。

○第2回 3月開催予定。

(2) さといも生産技術の向上（予算額 75 千円）

① さといも栽培技術講習会の開催

既存生産者に対し、栽培管理講習会を開催することで、生産技術の向上を図る。

実施日、場所	内容
5月22日（水） JAえひめ南 本所	県内のサトイモ先進地であるJAうまより講師を迎え、今後の栽培管理における注意点等について講習を実施。
8月8日（木） 8月9日（金） 現地圃場	土入れや今後の灌水管理について講習を実施。また、生産者と各圃場を巡回し、圃場互評会を実施した。



8月29日(木) 8月30日(金) 各地区営農 経済センター	生食用サトイモの収穫適期の見極めや 出荷規格について講習を実施。
2月14日(金) 2月18日(火) 各地区営農 経済センター	次年度の栽培に向けて栽培講習会を開 催した。土入れ、灌水の管理徹底を呼び かけた。



②さといも推進パンフレットの作成配布

新規生産者確保に向けて、さといも生産の推進パンフレットを作成し、水稻農家等を中心に、講習会等でさといもの作付を推進した。JA えひめ南の12月号広報誌に掲載を依頼した。パンフレットの配布数量は計1200部。

(3) 省力生産体制の整備(予算額153千円)

①作業受託組織の選抜・育成検討会の開催

作業受託組織や共同利用機械の要望について、生産者へアンケートを実施し意見を集約した。今後、組織育成や効率的な機械の共同利用に向けた取り組みを推進する。

②機械化体系の実証

12月12日(木)に、掘取機及び分割機の実演会を実施し、機械化による省力生産体系の意欲向上を図った。

(4) 優良種芋生産技術の実証と普及(予算額274千円)

①原種・種芋生産技術の実証

種芋生産技術講習会を開催し、優良な種芋生産技術の普及を行った。

実施日、場所	内容
8月8日(木)、9日(金) 現地圃場	灌水管理、病虫害防除について講習。生産者と各圃場を巡回し、圃場互評会を実施した。
2月14日(金)、2月18日(火) 各地区営農経済センター	種用サトイモの出荷・調整作業について講習を実施。

11月28日(木)に、種芋の生産ガイドラインを作成した。

②種芋生産・保管技術の検討と普及

○種芋生産、保管技術の先進地視察研修の実施

2月25日(火)に富山県の種芋生産について事例調査を実施し、生産技術や保管技術について学んだ。

○種芋保管技術の実証展示

種芋の安定供給を図るため、種芋をビニールハウス内で保管する技術の実証を行った。これまでの貯蔵方法に比べ手間がかかるが、冬期の寒波や出荷期の降雨の影響を受けないことから、計画的な出荷が期待できる。